

我が家は大家族

元気いつぱいの子供たち

工藤 ひとみさん

(ゆり組の翔生くん、たんぼ組の杏奈ちゃんのお母さん)

我が家は、小学3年生の凌生(りき)、ゆり組の翔生、たんぼ組の杏奈、そして私たち夫婦の5人家族です。

毎日があっという間に過ぎていきますが、やんちゃな子供たちに囲まれての生活は、とても充実していると感じています。一人が話せば、ほかの二人も話出すことはもちろん、兄弟げんかは日常茶飯事！ある意味それが私のBGMになっているのかもしれない。

時々「子供3人育てるって大変だね…」と言われる。確かに大変ですが、その分楽しいことや嬉しいことがたくさんあり、元気をもらっています。少し前までは、着替えや食事、すべてやってあげていたことが今ではすっかり一人で出来るようになり、子供たちで手分けして手伝ってくれるまでに成長しました。

これからは、今までとは違った大変さがあるかとは思いますが、子育てを楽しんでいきたいと思っています。



ゆめポケット

社会福祉法人 米沢仏教興道会
興道北部保育園

米沢市塩井町塩野1476-1
TEL (0238)21-5070
FAX (0238)21-5128
http://hokubu.yb-koudou.jp

第23号
2019.3.8

父母の会のこと

父母の会 会長 雨田 祐二

(ゆり組：奈桜ちゃんの父)

きょうだい3人、10年前からお世話になった保育園とのお付き合いが終わろうとしています。

「つぼみ」の時から、おしゃべりはじめる「うめ」、2階に上がることが誇らしげだった「たんぼ」、みんなのお兄さんお姉さんとして背筋をぴんと伸ばした「ゆり」まで、劇的な成長時期を支えていただきました。働く保護者として頼りになる保育園職員の皆さんには、大きな感謝を感じています。

私は役員として4年たちました。板垣園長先生が主任の時にお声がけ頂いたと記憶していますが、はじめは、断る姿勢でいました。時間的に厳しいと考えていました。そうお考えのお家の方は多いと思います。結果お引き受けしたわけですが、良かったと思えるようになりました。

親として子どもに、「社会的な役目を担う姿勢」は学んでほしいものです。夏祭りや運動会での仕事は、「背中」を見せることになったのではないかと思います。

役員は皆就労しているわけですので、それでも可能な範囲の仕事や相談してきました。多くの方にお願ひできたら、それだけ仕事が軽くなり、仲間が広がり、子供が育ちます。もしも役員を依頼されて迷ったら前向きにお考えになることをオススメします。



育児講座

お母さんも子どもも 幸せになれるコミュニケーション

今回はマザーズコーチングスクールの伊藤こず恵氏を講師にお招きし、子どもとのコミュニケーションについてお話をして頂きました。



子どもの将来のコミュニケーション能力の土台となる『自己肯定感』『自分で考える力』『折れない心』『思いやりの気持ち』を育てるために大人がどんな関わりをするべきなのかをみんなで一緒に考え、学ぶことができました。その中で特に“大人自身の自己肯定感が子どもへも大きく影響している”ということを知り、常に笑顔で、前向きな姿勢でありたいと感じました。講師の先生の素敵な笑顔と声に包まれながら、とてもいい時間となりました。

古紙回収

絵本に大変身

皆様からお持ちいただいた新聞紙・段ボールなどの資源は業者の方に回収してもらい、その収益で「おひさま文庫」の貸出絵本を購入させて頂いております。

子どもたちは絵本が大好きです！今後ともよろしくお願ひ致します。



編集後記

今年の冬はインフルエンザの猛威に大慌てでしたが、子どもたちは園舎裏でそり滑りや、雪あそびを存分に楽しみました。1年を振り返ってみると、地域の方々をはじめ、たくさんの人たちとの交流やふれあいのなかで、子どもたちの心も体も豊かになりました。

春の足音を感じながら、1年を締めくくりたいと思います。



ひよろのおひたしづくり

園長先生のお話会

子どもの

「心の拠り所」に...

興道北部保育園 園長
板垣 雅子

先日、子どもたちが「豆まき」の話をしました。「おにぎのこねねね」「おにぎんせつたらきませぬ」「うに」「げんきまめいっは」「くま」「なまきおにぎ」...と、おにぎの話を聞いて「やさいおにぎもいるよ。あおにぎもいるよ。鬼の話は聞きませぬ。」

二月三日は「節分」です。節分とは「季節の変わる節目」を指します。昔は、季節の分かれ目には「邪気」が入りやすいため、無病息災を願うために行われる日本の伝統行事です。勇敢に豆をまく子どもですが、ほとんどの子どもが保育者にしがみつき大泣きします。保育者は「こわいね。でも大丈夫だからね」と言いながら身を挺して必死で守ります。そんな姿を見ながら、いつも思うのです...怖くて大泣きした時に「豆まきに限らず、しっかりと「くま」がこがえる大人」の存在は、子どもにとっての「心の拠り所」であり、その拠り所によって、子どもは将来、人を信じる事ができ、人との良好な関係をつくる力となるのではないだろうか...

子どもは、不安な時や泣きたい時には、ぎゅっと抱きしめてほしい、嬉しい時には、一緒に喜んでほしい...そんな大きな人になるための様々な思いを、無条件に満たしてくれる大人を「心の拠り所」にしながら、心身共にすこやかに育ちます。

私たちは、保育の営みの中で、懐深く子どもを思い「なまきおにぎ」や「くま」を「心の拠り所」であり続けたいと思っております。



体育遊び

“楽しいからこそ、熱中し自ら育つ”

子どもたちは、体育遊びが大好きです。毎日、いきいきとした表情で元気に体を動かし遊んでいます。楽しく体を動かす体育遊びには、走る、ぶら下がる、転がる、飛び跳ねる、渡る、登るなどの動作を取り入れています。その遊びを通して、4つのことが身についていくと考えます。

- 1, 自ら挑戦し、最後までやり抜く力。
- 2, 「できた、やった〜」と嬉しい気持ちと一緒に喜び合うことで育つ共感性。
- 3, 異年齢の友だちの中で、見て、まねて、教え合う育つ社会性。
- 4, 自分の身を守るためのとっさの判断や身のこなしとなる安全能力。

子どもは楽しいからこそ熱中し遊びます。そして「もっとできるようになりたい」と自分を高めようとします。これからも私たちは、“楽しいからこそ、熱中し自ら育つ”をスローガンに、子どもたちの自ら育とうとする力を信じ、応援したいと思っています。



0歳児

保育者との信頼関係ができてくると、周りの世界に目を向けさまざまな遊びに興味を示すようになります。安心できる大好きな保育者に見守ってもらうことで、0歳児の小さな子どもたちでも、鉄棒やマットなどの遊具に自ら興味を示し、遊んでいるお友だちの姿を見たり、真似て触れたりしながら身体を動かすことを喜んでいます。



1歳児

歩行が安定し、自分の足でどこまでも歩けるようになった子どもたちは、友だちと一緒に遊ぶことが大好きです。また、大きい子の真似をして鉄棒やマット、平均台などの遊具に目を輝かせ、触れて遊んでいます。子どもたちの「みてね」の思いに寄り添い、体を動かして遊ぶことの楽しさや嬉しさを保育者も一緒に感じていくことで、子どもたちは繰り返し遊具に向かい、元気いっぱい遊んでいます。



2歳児

平均台や鉄棒などに触れるだけではなく、自分で思うように体を動かし、さまざまな動きができるようになってきました。今は、鉄棒から顔を出そうと頑張っている子どもたちです。友だちと一緒に楽しさを共有したり、保育者に共感してもらいながら、楽しんでいます。

鉄棒

鉄棒を2台平行に並べてその上を渡ったり、お尻をついて進んだり。バランスをとってゆっくりゆっくり…。前回りや逆上りの他にも少し難しい動きにも挑戦しながら楽しんでいます。



平均台

平均台で「一本橋渡り」を楽しむ子どもたち。また、平均台から片足を交互に床に下して渡る「上げ下げ渡り」は体の体幹をつくります。両手をついて反対側に飛び越える遊びは側転にもつながり、子どもたちは平均台でいろいろな遊びを楽しんでいます。



縄跳び

いろいろな縄跳びの技にあこがれを抱く子どもたち。音楽に合わせてリズム良く跳ぶことを覚え、友だちと縄を持ってリズムに合わせて回すことから始まり、次第に二人で縄を回してかけっこをします。今では、前跳び、後ろ跳び、長縄跳び、走り縄跳び…を楽しんでいます。



運動会

子どもたちが、毎日体育遊びを楽しんでいる姿をぜひお家の方に見ていただきたいという思いから運動会で“体育パフォーマンス”をしました。「これしたい!」「できるようになったよ!」と一人ひとりがいきいきとした表情で楽しんでいました。



幼児組
3・4・5歳